

講義名	神戸の景観と歴史			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

この講義では、本学が位置する神戸を対象に、「街の景観と歴史」を主題として紹介する。江戸時代の幕末の開港をはるかにさかのぼる大輪田治や兵庫津、開港後の国際的な港湾都市としての役割、近代都市へ移行する神戸の歩みを取り上げたい。そして、私たちが日常的に接している神戸の風景の中に、堆積された歴史を考える視座を提供していきたい。

到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、自らが考える「神戸像（神戸の魅力）」について、自分の言葉で他の人に話すことができるようになる。

提出課題

講義では毎回、感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、講義ごとに伝える。小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。レポート課題の詳細は、別途、5月後半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点）、学期末レポート（40点）を総合して行う。評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

都市の来歴を知ることを通じて、日常的に接している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけでなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の郷土コーナーにある関連文献にも積極的に目を通してほしい。また、講義で取り上げた神戸市内各所について、今後、また時間を改めて、見学ができるようになった時に、フィールドワークしてほしいと思う。予習として各自が調べた内容や大事だと思う箇所はメモをとること。講義中に私語をして、他の受講生の妨げにならないように注意すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

<プリント資料>
各回毎、プリント資料を配布する。プリント資料は無くさないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜紹介する。

授業計画

授業の進め方や評価方法の詳細は、第1回の授業で説明する。

1. 神戸と景観
神戸の景観をどのように捉えるか
2. 港と酒造業
3. 六甲山の利用
4. 神戸開港と居留地
5. 北野と町並み
6. 神戸と浄水場
7. 兵庫港と兵庫運河
8. 兵庫津と造船業
9. 兵庫津と西園街道
10. 兵庫と手清産
11. 長田の町並み
12. 多井畑と信仰
13. 垂水と海
14. 垂海と信仰
15. まとめ
あなたが考える神戸像（神戸の魅力）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べ、また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
(2) 知識を知能に転換することができる。論理的思考力を持った人材
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
・現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、板書・プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は日本民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

<受講生へのメッセージ>
講義の進め方の詳細は、教室で行う第1回の講義で説明する。教室では座席の間隔をあげ、教室の換気や手の消毒を励行し、感染症拡大の防止に努める。万が一、一時的に通学困難になった場合は、授業の資料の配付や課題等の連絡は、個別にメールを行い、必ず対応させていただく。
この講義では、「神戸」に関わることは何でもテーマになる。各自が考える神戸の魅力を探すきっかけにしたい。また、書籍の中に記されていないことから魅力を発見する人もいと思う。今後は、実際に神戸市内を歩く機会を増やしていただきたい。